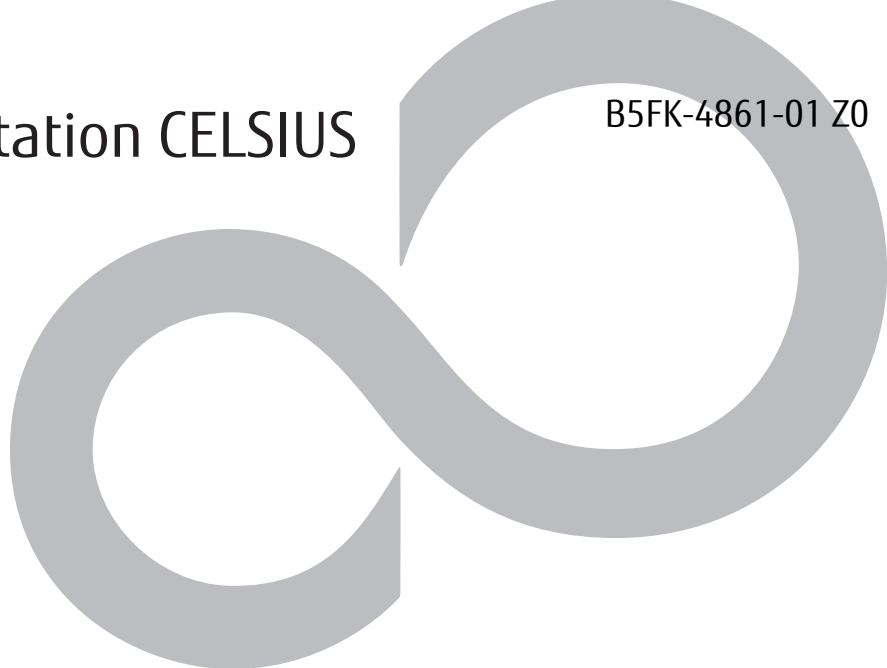




リカバリガイド

Windows 7

本書のバックアップについて

本書『リカバリガイド』は、ご購入時にCドライブに格納されています。リカバリなどでCドライブを削除した場合は、本書のデータも削除され、元に戻りません。事前に印刷（【Ctrl】 + 【P】 キー）またはバックアップしておくことをお勧めします。

このマニュアルは、改善のため変更することがあります。最新のマニュアルは、インターネット上のマニュアル（<http://www.fmwORLD.net/biz/celsius/manual/>）をご覧ください。

目次

本書をお読みになる前に	3
本書の表記	3
1. 必要に応じてお読みください	
1.1 ハードディスク構成	5
1.1.1 Windows 7のハードディスク構成	5
1.2 ディスク作成	7
1.2.1 ディスク作成の考え方	7
1.2.2 ディスク作成前の準備	8
1.2.3 ディスクを作成する	9
1.3 リカバリ	12
1.3.1 リカバリの考え方	12
1.3.2 注意事項	13
1.3.3 リカバリ前の準備	14
1.3.4 リカバリを実行する	15
1.4 セットアップ	17
1.4.1 注意事項	17
1.4.2 セットアップする	18
1.4.3 セットアップ後のインストール状態	19
2. 補足情報	
2.1 領域設定の変更	21
2.1.1 注意事項	21
2.1.2 領域設定の考え方	22
2.1.3 領域設定を変更する前の準備	22
2.1.4 領域設定を変更する	23
2.2 ハードディスクをご購入時の状態に戻す、またはOSを切り替える	25
2.2.1 注意事項	25
2.2.2 ハードディスクをご購入時の状態に戻す場合の考え方	26
2.2.3 ハードディスクをご購入時の状態に戻す前の準備	27
2.2.4 ハードディスクをご購入時の状態に戻す	28
2.3 リカバリ領域の削除	30
2.3.1 注意事項	30
2.3.2 リカバリ領域の削除の考え方	31
2.3.3 リカバリ領域を削除する前の準備	32
2.3.4 リカバリ領域を削除する	33

本書をお読みになる前に

本書の表記

本書は2014年8月現在の内容です。本書をお読みになり、ご不明な点がございましたら、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」へお問い合わせください。詳しくは、『取扱説明書』をご覧ください。

■ 本文中の記号

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

記号	意味
	お使いになるときの注意点や、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
	操作に関連することを記述しています。必要に応じてお読みください。
→	参照ページを示しています。

■ キーの表記と操作方法

本文中のキーの表記は、キーボードに書かれているすべての文字を記述するのではなく、説明に必要な文字を次のように記述しています。

例：【Ctrl】キー、【Enter】キー、【→】キーなど

また、複数のキーを同時に押す場合には、次のように「+」でつないで表記しています。

例：【Ctrl】+【F3】キー、【Shift】+【↑】キーなど

■ 連続する操作の表記

本文中の操作手順において、連続する操作手順を、「→」でつなげて記述しています。

例：「スタート」ボタンをクリックし、「すべてのプログラム」をクリックし、「アクセサリ」をクリックする操作



「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」の順にクリックします。

■ 画面例およびイラスト

本文中の画面およびイラストは一例です。お使いの機種やモデルによって、実際に表示される画面やイラスト、およびファイル名などが異なることがあります。

■ 本書に記載している仕様とお使いの機種との相違

本文中の説明は、標準仕様に基づいて記載しています。

ご購入時の構成によっては、本文中の説明がお使いの機種の仕様と異なる場合があります。あらかじめご了承ください。

なお、本文内において、機種やOS別の書き分けがある箇所については、お使いの機種の情報をお読みください。

■ ユーザーアカウント制御ウィンドウ

本書で説明しているWindowsの操作の途中で、「ユーザーアカウント制御」ウィンドウが表示される場合があります。これは、重要な操作や管理者の権限が必要な操作の前にWindowsが表示しているものです。表示されるメッセージに従って操作してください。

■ 光学ドライブ

本書では、DVD-R（4.7GB）およびDVD+R DL（8.5GB）に書き込みができる光学ドライブを搭載していることを前提に記述しています。お使いの機種やモデルによって、書き込みができる光学ドライブがない場合、別売の外付け光学ドライブを接続してください。外付け光学ドライブについては、富士通製品情報ページ内にある「システム構成図」(<http://www.fmwORLD.net/biz/fmv/product/syskou/>)をご覧ください。

- 本ワークステーションには、データをDVDに保存するためのソフトウェア「Roxio Creator」がインストールされています。外付け光学ドライブに添付の「Roxio Creator」をインストールする必要はありません。

■ 製品名の表記

本文中では、製品名称を次のように略して表記します。

製品名称	本文中の表記		
Windows 7 Professional 64 ビット版	Windows 7 (64 ビット版)	Windows 7	Windows
Windows 7 Professional 32 ビット版	Windows 7 (32 ビット版)		
Microsoft Office Home & Business 2013	Office Home & Business 2013		Office
Microsoft Office Personal 2013	Office Personal 2013		
Office Home & Business Premium プラス Office 365 サービス	Office Home & Business Premium		
Office Personal Premium プラス Office 365 サービス	Office Personal Premium		
Corel® WinDVD®	Corel WinDVD		WinDVD
Roxio Creator LJ	Roxio Creator		

■ 商標および著作権について

インテルおよびIntelは、アメリカ合衆国およびその他の国におけるIntel Corporationまたはその子会社の商標または登録商標です。

NVIDIA、Quadroは、NVIDIA Corporationの登録商標です。

Corel、WinDVDはCorel Corporationおよびその関連会社の商標または登録商標です。

Roxio、Roxioのロゴ、Roxio CreatorはCorel Corporation およびその関連会社の商標または登録商標です。

その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。

その他の各製品は、各社の著作物です。

その他のすべての商標は、それぞれの所有者に帰属します。

Copyright FUJITSU LIMITED 2014

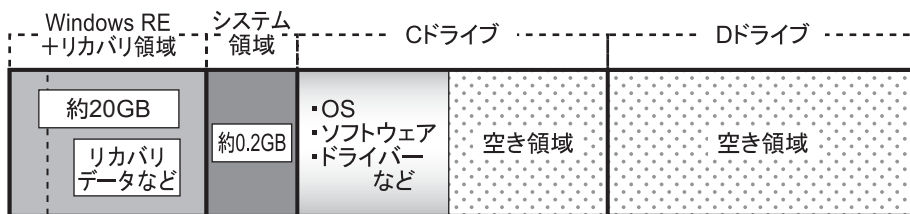
1.必要に応じてお読みください

1.1 ハードディスク構成

ハードディスクは、システムやリカバリデータなどが格納されている領域や、OS、ソフトウェアやデータなどを格納するCドライブとDドライブで構成されています。

1.1.1 Windows 7のハードディスク構成

本ワークステーションのハードディスク構成は、次のとおりです。



POINT

- ▶ 「Windows RE + リカバリ領域」に約20GB、「システム領域」に約0.2GB使用しているため、「コンピューター」に表示されるハードディスクの容量は、インターネット上のマニュアル『製品ガイド』－「本体仕様」の記載よりも約20.2GB少なく表示されます。
- ▶ 「Windows RE + リカバリ領域」と「システム領域」は、Windowsからは見えない領域です。

□ 「Windows RE + リカバリ領域」 には、 次のデータが格納されています。

- 診断プログラム
Windowsが正常に起動できない場合に本ワークステーションを診断します。
「診断プログラム」については、インターネット上のマニュアル『製品ガイド』をご覧ください。
- トラブル解決ナビ
リカバリの実行やハードウェアなどの診断をするソフトウェアです。リカバリについては、「1.3 リカバリ」(→P.12)をご覧ください。
- 「トラブル解決ナビディスク」のイメージ
本ワークステーションにトラブルが起こったときに使用する起動ディスクのイメージです。
- 「ドライバズディスク」のイメージ
ソフトウェアやドライバーをインストール、再インストールするときに使用するディスクのイメージです。

- Windows 7のリカバリデータ
本ワークステーションにトラブルが起こったときにCドライブをリカバリ（ご購入時の状態に戻す操作）するときに使用します。
Office搭載モデルの場合、Officeのイメージも格納されています。
- 「Corel WinDVD」のイメージ（Rシリーズ、Mシリーズを除く光学ドライブ搭載機種）
DVDを再生するソフトウェアのインストールディスクのイメージです。

1.2 ディスク作成

「Windows RE + リカバリ領域」にトラブルがあった場合、リカバリができなくなります。その場合に備えて、格納されているデータのディスク作成をお勧めします。

重要

- ▶ 本ワークステーションをご購入後、お手元にディスクがない場合は、できるだけ早くディスクを作成してください。
- ▶ カスタムメイドでリカバリデータディスクを選択されていないときは、ドライバースディスクは添付されていません。全体リカバリや、「リカバリ領域」の削除、「リカバリ領域」にトラブルがあったとき、「ドライバースディスク」のイメージが消えてしまいます。リカバリを行う前にディスクを作成してください。

1.2.1 ディスク作成の考え方

本ワークステーションにトラブルがあった場合に備えて、またはご購入時にインストールされていないソフトウェアを使用する場合に、次のディスクが必要になります。

「Windows RE + リカバリ領域」に格納されているデータから、次のディスクを作成します。

- リカバリデータディスク

ハードディスクをご購入時の状態や初期状態に戻す場合に使用します。また、Cドライブをリカバリするときに使用することもできます。

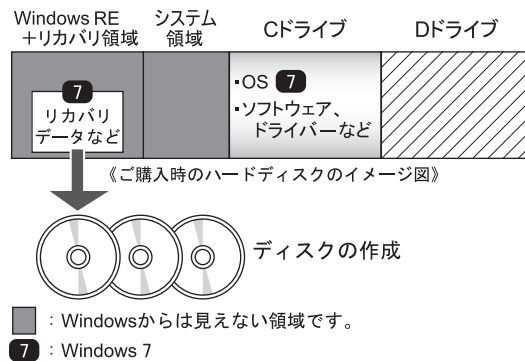
Office搭載モデルの場合、Officeのイメージも格納されています。

POINT

- ▶ リカバリデータディスクの作成は、本ワークステーション1台につき1回のみ作成することができます。ただし、リカバリデータディスクをご購入されている方は、リカバリデータディスクの作成はできません。
- トラブル解決ナビディスク
ハードディスクをご購入時の状態に戻す場合に使用します。このほか、領域設定を変更する場合にも使用します。
- ドライバースディスク
ソフトウェアやドライバーをインストールする場合に使用します。

重要

- ▶ ご購入時に添付されているすべてのソフトウェアやドライバーが、富士通製品情報ページ内にある「ドライバダウンロード」(http://www.fmwORLD.net/biz/fmv/index_down.html) に公開されているわけではありません。
添付のソフトウェアやドライバーをインストールしたい場合は、「ドライバースディスク」を作成してください。
- 「Corel WinDVD」ディスク（Rシリーズ、Mシリーズを除く光学ドライブ搭載機種）
再生ソフト「Corel WinDVD」が格納されています。DVDを再生するときに必要なソフトウェアです。



1.2.2 ディスク作成前の準備

ディスクを作成する前に、次の準備を行ってください。

■ 型名を確認する

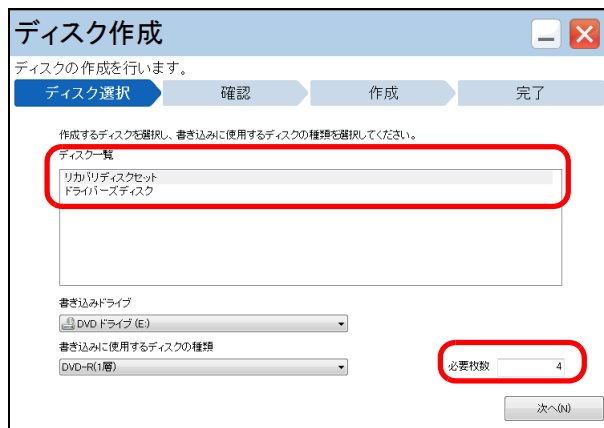
作成したディスクのレーベル面に記入します。あらかじめ、保証書などで本ワークステーションの型名を確認してください。

■ ディスクを用意する

- お使いになれるディスク
DVD-R (4.7GB) および DVD+R DL (8.5GB) が必要です。その他のディスクはお使いになれません。
 - ・ DVD-R (4.7GB) で作成するディスク
トラブル解決ナビディスク
リカバリデータディスク (Windows 7)
「Corel WinDVD」ディスク (Rシリーズ、Mシリーズを除く光学ドライブ搭載機種)
 - ・ DVD+R DL (8.5GB) で作成するディスク
ドライバーズディスク
- 推奨ディスク
インターネット上のマニュアル『製品ガイド』をご覧ください。
- 必要なディスクの枚数
必要なディスクの枚数は、「ディスクを作成する」の手順1 (→P.9) で確認できます。

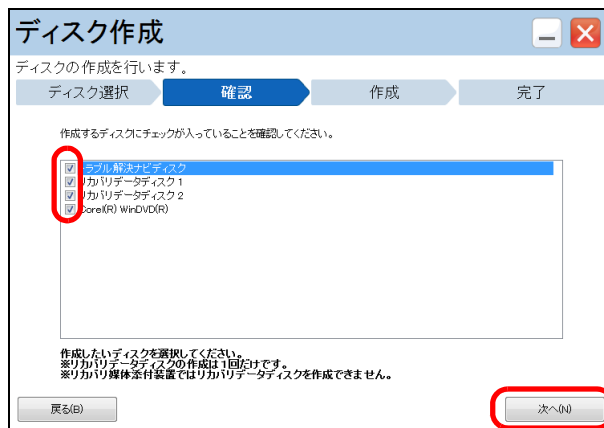
1.2.3 ディスクを作成する

- 1 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「ディスク作成」の順にクリックします。
「ディスク作成」画面が表示されます。作成するディスクをディスク一覧から選択し、必要枚数を確認します。



- 2 「次へ」をクリックします。
- 3 ディスク一覧から作成したいディスクにチェックを付け、「次へ」をクリックします。

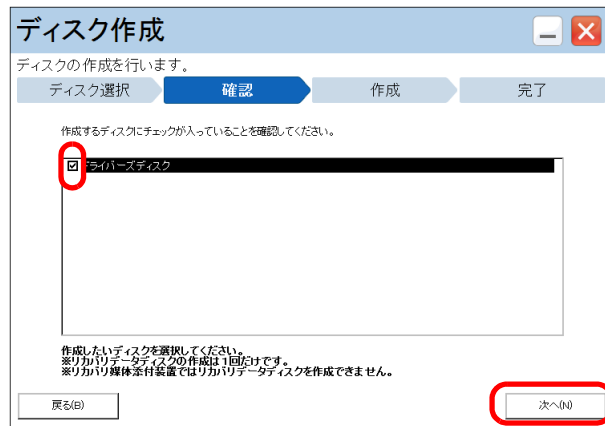
■リカバリディスクセットを選択した場合



POINT

- ▶ リカバリデータディスクの作成は、本ワークステーション1台につき1回のみです。
リカバリデータディスクを作成後も、ディスク一覧に「リカバリデータディスク」と表示されますが、選択できなくなります。

■ドライバースディスクを選択した場合



POINT

- ▶ ドライバースディスクを作成するときは、DVD+R DL (8.5GB) のディスクが必要です。

- 4 画面の指示に従って、未使用のディスクのレーベル面にディスクの名前と機種名（型名）を記入します。

POINT

- ▶ レーベル面に記入するときは、ボールペンや鉛筆など、先の硬いものを使わないでください。ディスクに傷が付くおそれがあります。

- 5 手順4で名前を記入したディスクを、光学ドライブにセットします。

POINT

- ▶ 「自動再生」ウィンドウが表示されたら、ウィンドウを閉じてください。

- 6 「開始」をクリックします。

ディスクへの書き込みが始まります。完了するまでしばらくお待ちください。

POINT

- ▶ 「書き込み可能なディスクをセットしてディスクが認識されるまで10秒ほど待ってから「OK」をクリックしてください。」と表示された場合、未使用のディスクがセットされていることを確認し、ディスクが認識されるまで（ディスクの回転が止まるまでの10秒ほど）待ってから「OK」をクリックしてください。

7 ディスクへの書き込みが完了するとトレーが開き、メッセージが表示されます。

●複数枚のディスクを作成する場合

2枚目以降のディスクを作成するよう、「(作成するディスク名) の作成を行います。」と表示されますので、書き込みが完了したディスクを取り出し、続けて次のディスクを作成します。手順4～手順6を繰り返し、枚数分を作成してください。

 POINT

- ▶ 書き込みエラーが表示された場合
「(ディスク名) の作成に失敗しました。」というメッセージが表示されたら、ディスクの不良が考えられますので、新しいディスクを用意し、「再試行」をクリックしてください。
なお、複数枚のディスクを作成している途中でエラーが出た場合は、手順3で、作成し直したいディスクにチェックして、ディスクの作成を続けてください。

8 完了メッセージが表示されたら、ディスクを取り出します。

9 「完了」をクリックします。

以上でディスクの作成は終了です。作成したディスクは、大切に保管してください。

1.3 リカバリ

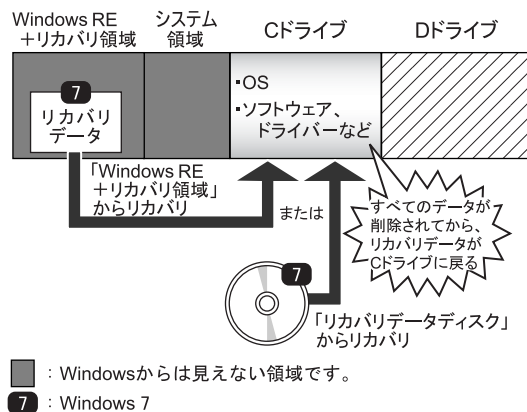
本ワークステーションのCドライブを、リカバリする方法を説明します。
リカバリは、Windowsが起動しないなどの問題が発生した場合には行います。

重要

- ▶ Windows 7以外のOSからWindows 7へOSを切り替える場合は、「2.2 ハードディスクをご購入時の状態に戻す、またはOSを切り替える」(→P.25)をご覧ください、Cドライブのみではなく、ハードディスクのすべてのデータをご購入時の状態に戻してください。
 - ▶ ハードディスクを保守交換した場合は、「2.2 ハードディスクをご購入時の状態に戻す、またはOSを切り替える」(→P.25)をご覧ください、Cドライブのみではなく、ハードディスクのすべてのデータをご購入時の状態に戻してください。
- なお、OSやドライバーなどがインストールされた状態のハードディスクに保守交換した場合は、リカバリを行ったりハードディスクをご購入時の状態に戻したりする必要はありません。

1.3.1 リカバリの考え方

リカバリとは、CドライブのOS、ドライバーなどのプレインストールソフトウェアをご購入時や、OSを切り替えた場合の初期状態に戻す操作です。
ハードディスクの領域は現在お使いの状態のまま、「リカバリ領域」または「リカバリデータディスク」のリカバリデータを使って、Cドライブのみご購入時の状態に戻します。Cドライブ以外のデータは変更されません。



1.3.2 注意事項

- トラブル解決ナビの「領域設定」以外でドライブ構成を変更している場合は、リカバリを実行できません。また、ダイナミックディスクや拡張パーティションなどを作成した場合もリカバリを実行できません。これらの場合は、ハードディスクをご購入時の状態に戻してください。詳しくは、「2.2 ハードディスクをご購入時の状態に戻す、またはOSを切り替える」(→P.25)をご覧ください。
- リカバリを行うと、Cドライブのすべてのデータが削除されます。必要に応じて事前にバックアップしてください。
- セキュリティチップ搭載機種でフォルダーやファイルの暗号化を行っている場合は、リカバリ前に復元用のバックアップをしてください。復元用のバックアップデータがないと、データが読み出せないことがあります。これによる損害などの責任は一切負いかねますので、あらかじめご了承ください。
Jシリーズについては、インターネット上のマニュアル『SMARTACCESSファーストステップガイド（認証デバイスをお使いになる方へ）』をご覧ください。
- ワークステーション本体にUSBメモリ、外付けハードディスクなどの周辺機器を接続している場合は、必ず取り外してください。また、Rシリーズ、Mシリーズ、Wシリーズで内蔵ハードディスクを増設している場合も、取り外してからリカバリを実行してください。
- モデルやカスタムメイドの選択によって、リカバリの後にソフトウェアやドライバーのインストールが必要になります。詳しくは「1.4.3 セットアップ後のインストール状態」(→P.19)をご覧ください。
- リカバリには時間がかかります。時間に余裕をもって、操作してください。

1.3.3 リカバリ前の準備

リカバリを実行する前に、次の準備を行ってください。

■ BIOSの設定を確認する

BIOSの設定をご購入時から変更している場合、ご購入時の設定に戻します。

またWindows 7以外のOSからWindows 7へ、OSを切り替える場合は、領域設定を変更する前に、必ず、次のBIOSの設定を確認してください。BIOSセットアップの操作方法については、インターネット上のマニュアル『製品ガイド』をご覧ください。



- ▶ 設定が異なると、Windows 7が起動しなかったり、正常にリカバリが完了しないので、必ず確認してください。

□ Windows 7のBIOS設定

- Jシリーズの場合



- ▶ 「管理者用パスワード」が設定されている場合は、BIOSセットアップを「管理者用パスワード」で起動する必要があります。
- ▶ 「セキュアブート機能」または「Secure Boot Option」を変更する場合は、「管理者用パスワード」を設定してください。

1. BIOSセットアップ画面の「終了」メニューから「標準設定値を読み込む」を実行します。
2. 次にメニューから設定項目を選択し、次のとおり、設定してください。

メニュー	設定項目	設定値
詳細	互換性サポートモジュール	使用する
	高速起動	使用しない
セキュリティ	セキュアブート設定	
	セキュアブート機能	使用しない

- Rシリーズ、Mシリーズ、Wシリーズの場合

1. BIOSセットアップ画面の「終了」メニューから「標準設定値を読み込む」を実行します。
領域設定の変更は、標準設定値のまま行ってください。

■ 必要に応じてディスクを用意する

- 「リカバリデータ」が格納されているディスク
ディスクからリカバリを行う場合に必要です。
お手元に、Windows 7（64ビット版）およびWindows 7（32ビット版）（Rシリーズ、Mシリーズを除く）のディスクがある場合は、いずれかのディスクを用意してください。

1.3.4 リカバリを実行する

重要

- ▶ Cドライブのすべてのデータが削除されます。あらかじめ、必要なデータをバックアップしてください。

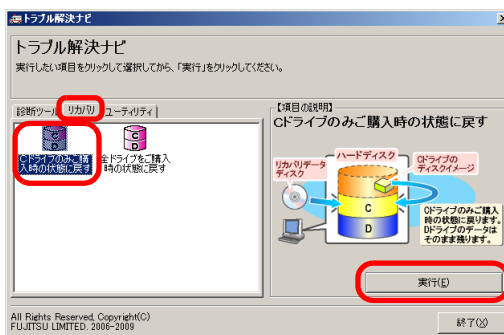
1 次の操作を行います。

1. 【F12】キーを押したまま、ワークステーション本体の電源を入れます。
2. 「FUJITSU」のロゴが表示された後、起動メニューが表示されたら【F12】キーを離します。

POINT

- ▶ JシリーズのBIOSセットアップの「詳細」メニューの「起動メニュー」が「使用しない」の設定になっている場合は、起動メニューが使用できません。その場合は、設定を「使用する」に変更してください。BIOSのセットアップの操作方法については、インターネット上のマニュアル『製品ガイド』をご覧ください。
 - ▶ 起動時のパスワードを設定している場合は、パスワードを入力してください。パスワードを入力後すぐに【F12】キーを押してください。
 - ▶ 起動メニューが表示されずWindowsが起動してしまった場合は、ワークステーション本体の電源を切ってもう一度操作してください。
3. カーソルキーで「トラブル解決ナビ」または「Recovery and Utility」を選択し、【Enter】キーを押します。
そのまましばらくお待ちください。「トラブル解決ナビ」が表示されます。

2 「リカバリ」タブの「Cドライブのみご購入時の状態に戻す」を選択し、「実行」をクリックします。

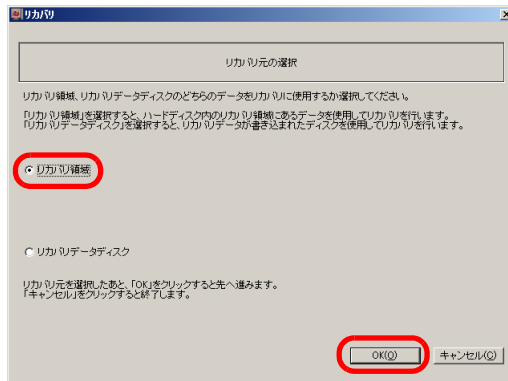


「ご使用上の注意」が表示されます。

3 「ご使用上の注意」をよく読み、「同意する」をクリックし、「次へ」をクリックします。

「リカバリ元の選択」画面が表示されます。

4 「リカバリ領域」をクリックし、「OK」をクリックします。



POINT

- ▶ リカバリ領域がない場合
 - ・「リカバリデータが見つかりません」というエラーメッセージが表示されますので、「OK」をクリックしてください。元の選択画面に戻ります。
 - ・「リカバリデータディスク」をクリックし、リカバリデータディスクによるリカバリを実行してください。
- ▶ リカバリデータディスクを使用する場合
 - ・「リカバリデータディスク」をクリックし、「OK」をクリックします。その後は、表示されるメッセージに従って操作してください。
 - ・お手元に Windows 7 (64 ビット版) および Windows 7 (32 ビット版) (R シリーズ、M シリーズを除く) のリカバリデータディスクがある場合は、いずれかのディスクを使用します。

「警告」画面が表示されます。

5 「OK」をクリックします。

「リカバリ」画面が表示され、リカバリが始まります。

リカバリが終了すると、「リカバリが正常に完了しました。」というメッセージが表示されます。

POINT

- ▶ リカバリデータディスクを使用した場合は、ディスクを取り出してください。

6 「完了」をクリックします。

ワークステーション本体の電源が自動的に切れます。

外付け光学ドライブを接続している場合は、取り外してください。

以上でリカバリは終了です。

続けて、「1.4 セットアップ」(→P.17) をご覧になり、セットアップを行ってください。

なお、電源は 30 秒以上待ってから入れてください。

1.4 セットアップ

1.4.1 注意事項

- セットアップが完了（「必ず実行してください」を実行）するまでは、次のものを接続または変更しないでください。セットアップが正常に行われなかったり、エラーメッセージが表示されたりする場合があります。
 - ・ 周辺機器
 - ・ LANケーブル
 - ・ 拡張カード
 - ・ 2台目のディスプレイ
 - ・ BIOSの設定
- セットアップ中は、電源を切らないでください。
- Windowsセットアップの各ウィンドウが完全に表示されないうちにキーを押すと、Windowsセットアップが完全に行われない場合があります。ウィンドウが完全に表示されてから、操作してください。
- Windowsセットアップが進められなくなった場合は、電源ボタンを4秒以上押して、ワークステーション本体の電源を一度切り、セットアップをやり直してください。セットアップがやり直せない場合は、リカバリを行ってください。リカバリについては、「1.3 リカバリ」（→P.12）をご覧ください。
- Windowsセットアップの途中で、「新しいハードウェアの追加ウィザード」ウィンドウが表示された場合は、お使いのディスプレイに合わせたドライバーをインストールしてください。
- マルチディスプレイ機能搭載機種の場合は、セットアップを行い、ディスプレイドライバーをインストールした後に、2台目のディスプレイを接続してください。マルチディスプレイ機能については、インターネット上のマニュアル『製品ガイド』をご覧ください。

1.4.2 セットアップする

1 ワークステーション本体の電源を入れます。

画面に「FUJITSU」ロゴが表示され、自己診断（POST）が始まります。
画面が表示されるまで、一時的に画面が真っ暗な状態になったり、画面に変化がなかったりすることがありますが、故障ではありません。絶対に電源を切らずにそのままお待ちください。

自己診断（POST）が終わると「Windowsのセットアップ」画面が表示されます。

2 メッセージに従って操作します。

途中に、ユーザー名、パスワード、およびコンピューター名を入力する画面が表示されます。

入力可能な文字と文字数は、次のとおりです。

- ・ ユーザー名：12文字以内の半角英数字（a～z、A～Z、0～9）で入力してください。数字は、英字と組み合わせてください。
- ・ パスワード：半角英数字（a～z、A～Z、0～9）で入力してください。大文字、小文字は区別されます。
- ・ コンピューター名：ここでは変更せず、セットアップの終了後に変更してください。

●ハードディスクをご購入時の状態に戻した後のセットアップの場合

「ハードディスク領域変更ツール」画面が表示されます。

領域設定を変更する場合は、変更する方法を選択し、設定してください。

領域設定を変更しない場合は、「変更しない」をクリックします。

Windowsセットアップが完了すると、「必ず実行してください」ウィンドウが表示されます。

3 「必ず実行してください」ウィンドウの内容を確認し、「実行する」をクリックします。

4 「ユーザーアカウント制御」ウィンドウが表示されたら、「はい」をクリックします。

最終設定が行われ、再起動メッセージが表示されます。

再起動メッセージが表示されるまで、キーボードやマウスを操作しないでください。

5 「OK」をクリックします。

本ワークステーションが再起動し、パスワードの入力画面が表示されます。

6 設定したパスワードを入力し、「→」をクリックします。

Windowsが起動します。

これで、セットアップが完了しました。この後は、「1.4.3 セットアップ後のインストール状態」（→P.19）をご覧ください。セットアップ後に必要な操作を行ってください。

1.4.3 セットアップ後のインストール状態

モデルやカスタムメイドの選択、また、リカバリの方法やリカバリに使用したリカバリデータディスクによって、セットアップ後のアプリやドライバーのインストール状態が異なります。必要に応じて、Officeやドライバーをインストールしてください。

■ アプリケーション、 ドライバーなどのインストール

ディスプレイのドライバーをインストールする必要があります。次の手順へ進んでください。

1 「ドライバーズディスク」をセットします。

「ドライバーズディスク検索」が起動します。

POINT

- ▶ 「ドライバーズディスク」がお手元にはない場合は、「1.2 ディスク作成」(→P.7)をご覧ください。作成してください。
- ▶ 「ドライバーズディスク」をセットすると、「自動再生」ウィンドウが表示されることがあります。その場合は、「メディアからのプログラムのインストール/実行」の「DRVCDSRC.exeの実行」を選択してください。
- ▶ スタートメニューから起動する場合は、「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「ドライバーズディスク検索」→「ドライバーズディスク検索 (ハードディスク)」の順にクリックします。

2 お使いのドライバーを選択します。

●グラフィックスカードを選択した場合

1. お使いの機種とOSを選択し、「種別」に「すべて」を選択します。
2. ドライバーを選択します。
 - ・ Windows 7 (64ビット版) :
「NVIDIA ディスプレイドライバー 64ビット版」をクリックします。
 - ・ Windows 7 (32ビット版) (Rシリーズ、Mシリーズを除く) :
「NVIDIA ディスプレイドライバー」をクリックします。

●グラフィックスカードを選択しなかった場合

1. お使いの機種とOSを選択し、「種別」に「すべて」を選択します。
2. ドライバーを選択します。
 - ・ Windows 7 (64ビット版) :
「インテル(R) ディスプレイドライバー 64ビット版」をクリックします。
 - ・ Windows 7 (32ビット版) (Rシリーズ、Mシリーズを除く) :
「インテル(R) ディスプレイドライバー」をクリックします。

3 「インストール」をクリックします。

インストーラー、またはテキストファイルが起動されます。テキストファイルが起動された場合は、テキストファイルに従って、ドライバーをインストールしてください。ドライバーのインストール完了後、本ワークステーションが再起動します。

POINT

- ▶ ドライバーのインストール前に「新しいハードウェアの検出ウィザード」ウィンドウが表示される場合があります。この場合は「キャンセル」をクリックしてください。

- 4** 設定したパスワードを入力し、「→」をクリックします。
Windowsが起動します。

- 5** ディスクを取り出します。

これでドライバーのインストールが完了しました。

- ・ Office搭載モデルの場合
「■ Officeのインストール（Office搭載モデルの場合）」（→P.20）に進んでください。
- ・ Office搭載モデル以外の場合
これでセットアップが完了しました。この後は、『取扱説明書』をご覧ください。セットアップの後に必要な操作を行ってください。

■ Officeのインストール（Office搭載モデルの場合）

リカバリの方法やリカバリに使用したリカバリデータディスクによって、セットアップ後、Office製品のインストールの状態が異なります。

○：インストール済 ×：インストール未

リカバリの方法、リカバリに使用したディスク	Officeのインストールの状態
リカバリ領域からリカバリ	○
「1.2 ディスク作成」（→P.7）で作成したリカバリデータディスク	○
ご購入時に添付のリカバリデータディスク（注）	×

注：モデルやカスタムメイドの選択によって添付されます。

ご購入時に添付のディスクを使ってリカバリを行った場合は、Office製品がインストールされていません。次の操作が必要です。

マイクロソフト社のホームページからダウンロードしてインストールしてください。インストール方法については次のホームページをご覧ください。

<http://www.office.com/jppipcsetup/>

この後は、『取扱説明書』をご覧ください。セットアップの後に必要な操作を行ってください。

2. 補足情報

2.1 領域設定の変更

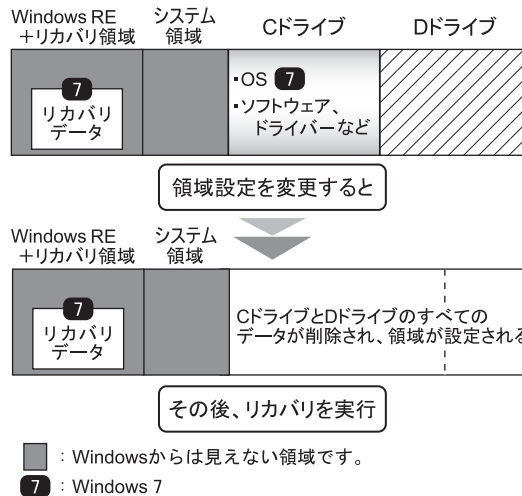
ハードディスクのCドライブとDドライブの領域を変更したり、1区画にしたりすることができます。

2.1.1 注意事項

- 領域設定の変更を行うと、CドライブとDドライブのすべてのデータが削除されます。あらかじめ、必要なデータをバックアップしてください。
「Windows RE + リカバリ領域」、「システム領域」のデータは削除されません。
- トラブル解決ナビの「領域設定」以外でドライブ構成を変更している場合は、領域設定を変更できません。また、ダイナミックディスクや拡張パーティションなどを作成した場合も領域設定を変更できません。これらの場合は、ハードディスクをご購入時の状態に戻してください。詳しくは、「2.2 ハードディスクをご購入時の状態に戻す、またはOSを切り替える」(→P.25)をご覧ください。
- トラブル解決ナビの「領域設定」以外で、ドライブ構成を変更する場合、「Windows RE 領域」は削除しないでください。
- セキュリティチップ搭載機種でフォルダーやファイルの暗号化を行っている場合は、ハードディスクをご購入時の状態に戻す前に復元用のバックアップをしてください。復元用のバックアップデータがないと、データが読み出せないことがあります。
これによる損害などの責任は一切負いかねますので、あらかじめご了承ください。
Jシリーズについては、インターネット上のマニュアル『SMARTACCESSファーストステップガイド（認証デバイスをお使いになる方へ）』をご覧ください。
- ワークステーション本体にUSBメモリ、外付けハードディスクなどの周辺機器を接続している場合は、必ず取り外してください。また、Rシリーズ、Mシリーズ、Wシリーズで内蔵ハードディスクを増設している場合も、取り外してから領域設定の変更を行ってください。

2.1.2 領域設定の考え方

領域設定を変更すると、いったんCドライブとDドライブのすべてのデータが削除され、続いて指定した容量で領域が設定されます。その後、リカバリを実行します。



2.1.3 領域設定を変更する前の準備

領域設定を変更する前に、次の準備を行ってください。

■ BIOSの設定を確認する

BIOSの設定をご購入時から変更している場合、ご購入時の設定に戻します。

またWindows 7以外のOSからWindows 7へ、OSを切り替える場合は、領域設定を変更する前に、必ず、BIOSの設定を変更してください。設定については、「□ Windows 7のBIOS設定」(→P.14)をご覧ください。また、BIOSセットアップの操作方法については、インターネット上のマニュアル『製品ガイド』をご覧ください。

重要

- ▶ 設定が異なると、Windows 7が起動しなかったり、正常にリカバリが完了しないので、必ず確認してください。

2.1.4 領域設定を変更する

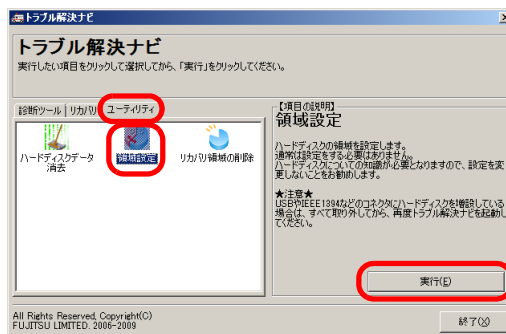
1 次の操作を行います。

1. 【F12】キーを押したまま、ワークステーション本体の電源を入れます。
2. 「FUJITSU」のロゴが表示された後、起動メニューが表示されたら【F12】キーを離します。

POINT

- ▶ JシリーズのBIOSセットアップの「詳細」メニューの「起動メニュー」が「使用しない」の設定になっている場合は、起動メニューが使用できません。その場合は、設定を「使用する」に変更してください。BIOSのセットアップの操作方法については、インターネット上のマニュアル『製品ガイド』をご覧ください。
 - ▶ 起動時のパスワードを設定している場合は、パスワードを入力してください。Rシリーズ、Mシリーズ、Wシリーズの場合は、起動メニューが表示されずWindowsが起動してしまった場合は、ワークステーション本体の電源を切ってもう一度操作してください。
3. カーソルキーで「トラブル解決ナビ」または「Recovery and Utility」を選択し、【Enter】キーを押します。
そのまましばらくお待ちください。「トラブル解決ナビ」が表示されます。

2 「ユーティリティ」タブの「領域設定」を選択し、「実行」をクリックします。

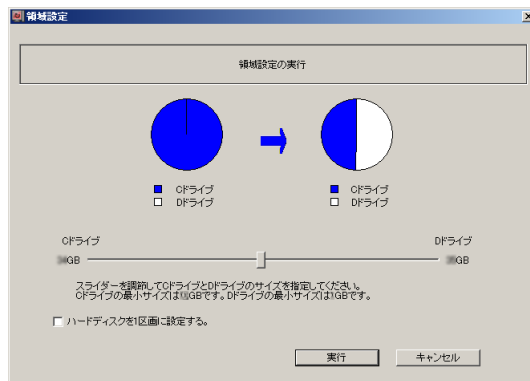


「ご使用上の注意」が表示されます。

3 「ご使用上の注意」をよく読み、「同意する」をクリックし、「次へ」をクリックします。

「領域設定の実行」画面が表示されます。

4 領域を設定します。



●CドライブとDドライブ（2区画）を作成する場合

スライダーを左右にドラッグしてCドライブとDドライブの容量を指定します。容量は1GB単位で設定できます。

●Cドライブのみ（1区画）を作成する場合

「ハードディスクを1区画に設定する。」にチェックを付けます。

5 「実行」をクリックします。

確認画面が表示されます。



- ▶ 領域設定を変更していなくても、「実行」をクリックするとCドライブとDドライブのすべてのデータが削除されます。

6 「はい」をクリックします。

領域の設定が始まります。

領域の設定が完了すると、「領域設定の完了」画面が表示されます。

7 「完了」をクリックします。

「トラブル解決ナビ」が表示されます。

以上で領域設定の変更は終了です。

この後は、「1.3 リカバリ」（→P.12）をご覧ください。リカバリを行ってください。

2.2 ハードディスクをご購入時の状態に戻す、またはOSを切り替える

変更したドライブ構成を元に戻す場合、またはWindows 7以外のOSからWindows 7へOSを切り替える場合などに、ディスクを使って「ハードディスクをご購入時の状態に戻す」を実行します。

2.2.1 注意事項

- ハードディスクをご購入時の状態に戻すと、ハードディスクのすべてのデータが削除されます。必要に応じて事前にバックアップしてください。
- カスタムメイドでハードディスクを追加購入されている場合、ハードディスク全体をリカバリしても、OSシステムインストールされているディスクドライブユニット以外は、ご使用の状態のままとなります。
- ハードディスク全体をリカバリすると、リカバリ領域に格納されているデータが消えてしまいます。ハードディスク全体をリカバリする前に、お手元にあるディスクを確認してください。

リカバリ領域には、次のディスクのデータが格納されています。

- ・リカバリ領域にあるデータ
 - ・「トラブル解決ナビディスク」のイメージ
 - ・「ドライバーズディスク」のイメージ
 - ・リカバリデータディスク (Windows 7)
 - ・「Corel WinDVD」のイメージ (Rシリーズ、Mシリーズを除く光学ドライブ搭載機種)

これらのディスクがすべて揃っていない場合は、ディスクを作成してください。

ディスクの作成方法については、「1.2 ディスク作成」(→P.7)をご覧ください。

- セキュリティチップ搭載機種でフォルダーやファイルの暗号化を行っている場合は、ハードディスクをご購入時の状態に戻す前に復元用のバックアップをしてください。復元用のバックアップデータがないと、データが読み出せないことがあります。

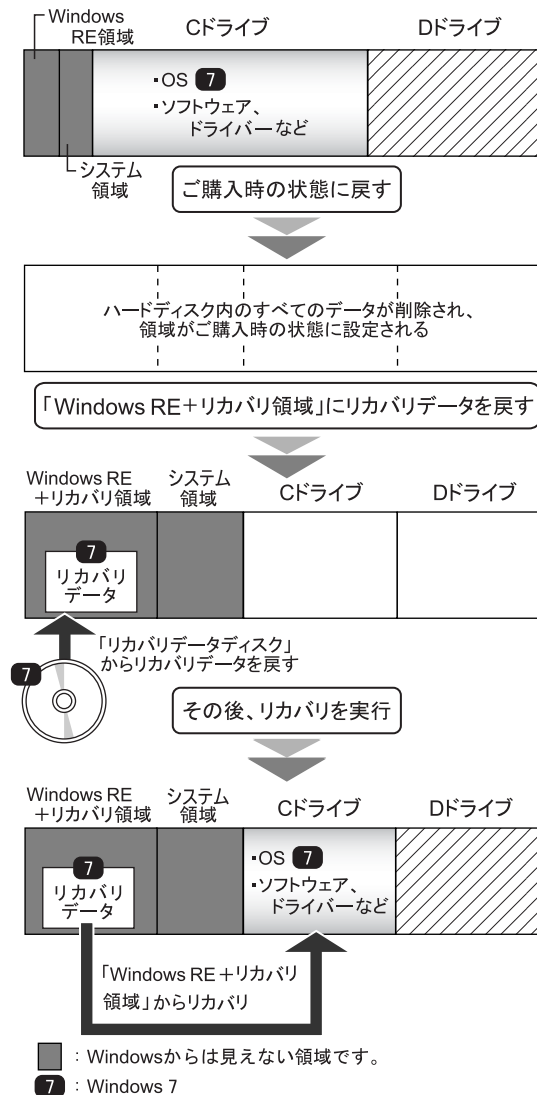
これによる損害などの責任は一切負いかねますので、あらかじめご了承ください。

Jシリーズについては、インターネット上のマニュアル『SMARTACCESS ファーストステップガイド (認証デバイスをお使いになる方へ)』をご覧ください。

- ワークステーション本体にUSBメモリ、外付けハードディスクなどの周辺機器を接続している場合は、必ず取り外してください。また、Rシリーズ、Mシリーズ、Wシリーズで内蔵ハードディスクを増設している場合も、取り外してからハードディスクをご購入時の状態に戻す、またはOSを切り替えてください。
- モデルやカスタムメイドの選択によって、「ハードディスクをご購入時の状態に戻す」を実行した後に、ソフトウェアやドライバーのインストールが必要になります。詳しくは「1.4.3 セットアップ後のインストール状態」(→P.19)をご覧ください。
- ハードディスクをご購入時の状態に戻すには時間がかかります。時間に余裕をもって、操作してください。

2.2.2 ハードディスクをご購入時の状態に戻す場合の考え方

ハードディスクをご購入時の状態に戻すと、いったんハードディスク内のすべてのデータが削除され、領域がご購入時の状態に設定されます。続いて「Windows RE+リカバリ領域」にリカバリデータを戻し、その後、リカバリを実行します。



2.2.3 ハードディスクをご購入時の状態に戻す前の準備

ハードディスクをご購入時の状態に戻す前に、次の準備を行ってください。

■ BIOSの設定を確認する

BIOSの設定をご購入時から変更している場合、ご購入時の設定に戻します。

またWindows 7以外のOSからWindows 7へ、OSを切り替える場合は、ハードディスクをご購入時の状態に戻す前に、必ず、BIOSの設定を変更してください。設定については、「□ Windows 7のBIOS設定」(→P.14)をご覧ください。また、BIOSセットアップの操作方法については、インターネット上のマニュアル『製品ガイド』をご覧ください。

重要

- ▶ 設定が異なると、Windows 7が起動しなかったり、正常にリカバリが完了しないので、必ず確認してください。

■ ディスクを用意する

- 「トラブル解決ナビ」が格納されているディスク
- ドライバーズディスク
- 「リカバリデータ」が格納されているディスク
お手元に、Windows 7（64ビット版）およびWindows 7（32ビット版）（Rシリーズ、Mシリーズを除く）のリカバリデータディスクがある場合は、いずれかのディスクを用意してください。
- 「Corel WinDVD」ディスク（Rシリーズ、Mシリーズを除く光学ドライブ搭載機種）

2.2.4 ハードディスクをご購入時の状態に戻す

重要

- ▶ ハードディスク内のすべてのデータが削除されます。あらかじめ、必要なデータをバックアップしてください。

1 次の操作を行います。

1. 【F12】キーを押したまま、ワークステーション本体の電源を入れます。
2. 「FUJITSU」のロゴが表示された後、起動メニューが表示されたら【F12】キーを離します。

POINT

- ▶ JシリーズのBIOSセットアップの「詳細」メニューの「起動メニュー」が「使用しない」の設定になっている場合は、起動メニューが使用できません。その場合は、設定を「使用する」に変更してください。BIOSのセットアップの操作方法については、インターネット上のマニュアル『製品ガイド』をご覧ください。
- ▶ 起動時のパスワードを設定している場合は、パスワードを入力してください。Rシリーズ、Mシリーズ、Wシリーズの場合は、起動メニューが表示されずWindowsが起動してしまった場合は、ワークステーション本体の電源を切ってもう一度操作してください

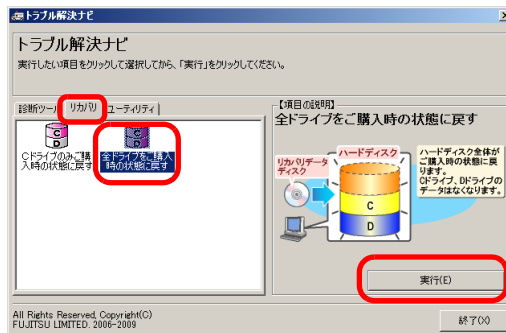
2 「トラブル解決ナビ」が格納されているディスクをセットします。

- #### 3 データの読み込みが終了し光学ドライブが停止してから、カーソルキーでディスクをセットした光学ドライブを選択し、【Enter】キーを押します。
- そのまましばらくお待ちください。「トラブル解決ナビ」が表示されます。

POINT

- ▶ 「トラブル解決ナビ」が表示されるまでの間、一時的に画面が真っ暗な状態になったり、画面に変化がなかったりすることがありますが、故障ではありません。電源を切らずにそのままお待ちください。
- ▶ 「CD/DVDの起動モードを選択してください。」または「Please select CD/DVD boot mode」と表示された場合は、「BIOS モードで起動」または「BIOS Boot」を選択してください。

- 4** 「リカバリ」タブの「全ドライブをご購入時の状態に戻す」を選択し、「実行」をクリックします。



「ご使用上の注意」が表示されます。

- 5** 「ご使用上の注意」をよく読み、「同意する」をクリックし、「次へ」をクリックします。

- 6** 画面のメッセージに従って操作します。

この後は、

1. ディスクの確認
2. ハードディスクの領域を設定する
3. リカバリ領域にリカバリデータを復元する
4. リカバリを実行する

の順に進めます。画面のメッセージで指定されたディスクをセットして、操作を進めてください。

「リカバリが正常に完了しました。」というメッセージが表示されたら手順7に進んでください。

- 7** ディスクを取り出し、「完了」をクリックします。

ワークステーション本体の電源が自動的に切れます。

外付け光学ドライブを接続している場合は、取り外してください。

以上で「ハードディスクをご購入時の状態に戻す」は終了です。

続けて、「1.4 セットアップ」(→P.17)をご覧ください。セットアップを行ってください。

なお、電源は30秒以上待ってから入れてください。

2.3 リカバリ領域の削除

リカバリ領域を削除することで、Cドライブ、Dドライブの容量を増やすことができます。

2.3.1 注意事項

- リカバリ領域を削除すると、領域設定を変更し直すため、リカバリ領域のほかにCドライブとDドライブのすべてのデータが削除されます。必要に応じて事前にバックアップしてください。
- リカバリ領域を削除すると、リカバリ領域に格納されているデータが消えてしまいます。リカバリ領域を削除する前に、お手元にあるディスクを確認してください。リカバリ領域には、次のディスクのデータが格納されています。

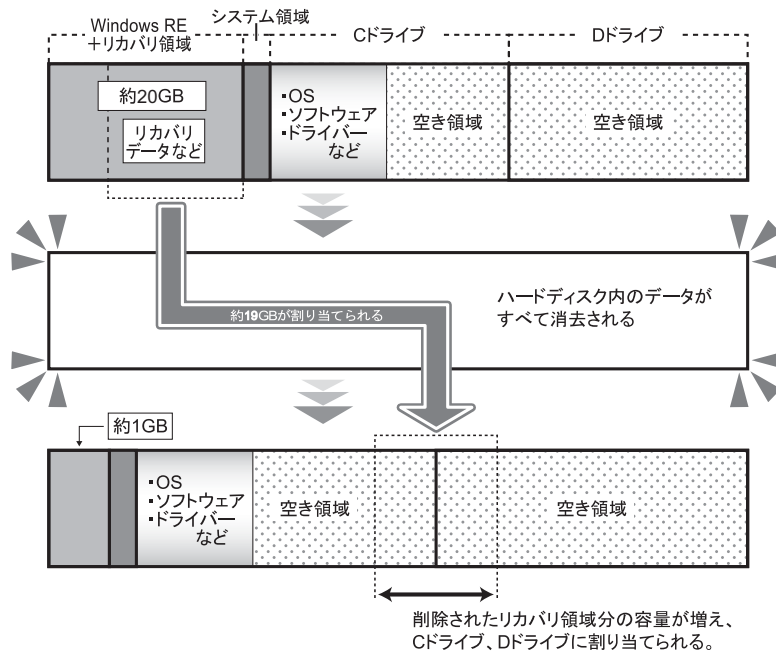
- ・ リカバリ領域にあるデータ
 - ・ 「トラブル解決ナビディスク」のイメージ
 - ・ 「ドライバーズディスク」のイメージ
 - ・ リカバリデータディスク (Windows 7)
 - ・ 「Corel WinDVD」のイメージ (Rシリーズ、Mシリーズを除く光学ドライブ搭載機種)

これらのディスクがすべて揃っていない場合は、ディスクを作成してください。ディスクの作成方法については、「1.2 ディスク作成」(→P.7)をご覧ください。

- セキュリティチップ搭載機種でフォルダーやファイルの暗号化を行っている場合は、リカバリ領域を削除する前に復元用のバックアップをしてください。復元用のバックアップデータがないと、データが読み出せないことがあります。これによる損害などの責任は一切負いかねますので、あらかじめご了承ください。Jシリーズについては、インターネット上のマニュアル『SMARTACCESS ファーストステップガイド (認証デバイスをお使いになる方へ)』をご覧ください。
- ワークステーション本体にUSBメモリ、外付けハードディスクなどの周辺機器を接続している場合は、必ず取り外してください。また、Rシリーズ、Mシリーズ、Wシリーズで内蔵ハードディスクを増設している場合も、取り外してからリカバリ領域の削除を行ってください。
- モデルやカスタムメイドの選択によって、リカバリ領域を削除しリカバリを実行した後に、ソフトウェアやドライバーのインストールが必要になります。詳しくは「1.4.3 セットアップ後のインストール状態」(→P.19)をご覧ください。
- リカバリ領域を削除するには時間がかかります。時間に余裕をもって、操作してください。

2.3.2 リカバリ領域の削除の考え方

リカバリ領域を削除することで、Cドライブ、Dドライブの容量を増やすことができます。「Windows RE + リカバリ領域」内にあるリカバリ領域部分が、Cドライブ、Dドライブに割り当てられます。



2.3.3 リカバリ領域を削除する前の準備

リカバリ領域を削除する前に、次の準備を行ってください。

■ BIOSの設定を確認する

BIOSの設定をご購入時から変更している場合、ご購入時の設定に戻します。

またWindows 7以外のOSからWindows 7へ、OSを切り替えた場合は、リカバリ領域を削除する前に、必ず、BIOSの設定を確認してください。設定については、「□ Windows 7のBIOS設定」(→P.14)をご覧ください。BIOSセットアップの操作方法については、インターネット上のマニュアル『製品ガイド』をご覧ください。

重要

- ▶ 設定が異なると、Windows 7が起動しなかったり、正常にリカバリが完了しないので、必ず確認してください。

■ ディスクを用意する

- 「トラブル解決ナビ」が格納されているディスク
- ドライバースディスク
- 「リカバリデータ」が格納されているディスク
お手元に、Windows 7（64ビット版）およびWindows 7（32ビット版）（Rシリーズ、Mシリーズを除く）のリカバリデータディスクがある場合は、いずれかのディスクを用意してください。
- 「Corel WinDVD」ディスク（Rシリーズ、Mシリーズを除く光学ドライブ搭載機種）

POINT

- ▶ お手元に上記のディスクがない場合には、リカバリ領域を削除する前に、必ずディスクを作成してください。作成方法については「1.2 ディスク作成」(→P.7)をご覧ください。

2.3.4 リカバリ領域を削除する

重要

- ▶ リカバリ領域を削除すると、ハードディスクのすべてのデータが削除されます。必要に応じて事前にバックアップしてください。

1 次の操作を行います。

1. 【F12】 キーを押したまま、ワークステーション本体の電源を入れます。
2. 「FUJITSU」のロゴが表示された後、起動メニューが表示されたら【F12】 キーを離します。

POINT

- ▶ JシリーズのBIOSセットアップの「詳細」メニューの「起動メニュー」が「使用しない」の設定になっている場合は、起動メニューが使用できません。その場合は、設定を「使用する」に変更してください。BIOSのセットアップの操作方法については、インターネット上のマニュアル『製品ガイド』をご覧ください。
- ▶ 起動時のパスワードを設定している場合は、パスワードを入力してください。Rシリーズ、Mシリーズ、Wシリーズの場合は、起動メニューが表示されずWindowsが起動してしまった場合は、ワークステーション本体の電源を切ってもう一度操作してください

2 「トラブル解決ナビ」が格納されているディスクをセットします。

- #### 3 データの読み込みが終了し光学ドライブが停止してから、カーソルキーでディスクをセットした光学ドライブを選択し、【Enter】キーを押します。
- そのまましばらくお待ちください。「トラブル解決ナビ」が表示されます。

POINT

- ▶ 「トラブル解決ナビ」が表示されるまでの間、一時的に画面が真っ暗な状態になったり、画面に変化がなかったりすることがありますが、故障ではありません。電源を切らずにそのままお待ちください。
- ▶ 「CD/DVDの起動モードを選択してください。」または「Please select CD/DVD boot mode」と表示された場合は、「BIOS モードで起動」または「BIOS Boot」を選択してください。

4 「ユーティリティ」タブの「リカバリ領域の削除」を選択し、「実行」をクリックします。

「ご使用上の注意」が表示されます。

- #### 5 「ご使用上の注意」をよく読み、「同意する」をクリックし、「次へ」をクリックします。

6 画面のメッセージに従って操作します。

この後は、

1. ディスクの確認
2. ハードディスクの領域を設定する
3. リカバリを実行する

の順に進めます。画面のメッセージで指定されたディスクをセットして、操作を進めてください。

「リカバリが正常に完了しました。」というメッセージが表示されたら手順7に進んでください。

7 ディスクを取り出し、「完了」をクリックします。

ワークステーション本体の電源が自動的に切れます。

外付け光学ドライブを接続している場合は、取り外します。

8 30秒以上待ってから電源を入れます。**9 セットアップを行います。**

詳しくは、「1.4 セットアップ」(→P.17)をご覧ください。

10 「スタート」ボタン→「コンピューター」の順にクリックし、Cドライブ、Dドライブの容量が増えていることを確認します。

以上でリカバリ領域の削除は終了です。

CELSIUS

リカバリガイド
B5FK-4861-01 Z0-00

発行日 2014年10月
発行責任 富士通株式会社

〒105-7123 東京都港区東新橋 1-5-2 汐留シティセンター

- このマニュアルの内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
- このマニュアルに記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
- 無断転載を禁じます。